■第１回会津美里町観光振興計画策定委員会議事録

日　　時：平成 27 年 6 月 24 日（水）13:30～15:30
場　　所：本郷庁舎　ふれあいセンター（2 階会議室）
出席委員：石原委員、小泉委員、村松委員、星野委員、高梨委員、鈴木委員、小林委員、
　　長谷川委員（計 8 名）
事 務 局（会津美里町商工観光課）：阿部課長、鈴木課長補佐、立川係長、川田主任主査
　　（㈱コムテック地域工学研究所）：小浦、脇門

〇委嘱状交付
・町長より各委員に委嘱状交付

１．開会（阿部課長）

２．町長挨拶

３．委員紹介（阿部課長）

４．委員長及び副委員長の選出
・委員長に石原直委員を選出

５．コンサルタント紹介
・コムテックより挨拶

６．議事
（１）企画書について
（コンサルタントより資料説明）

＜委員長＞
・かなりのボリュームがあり、短期間でこれだけのことができるのか。商工観光課、観光協会、振興公社等がすでに持っている様々なデータを有効に使って頂きたい。ゼロから積み上げるにはとても時間が足りないのではないかと危惧している。

（２）本町における観光振興の課題について
（コンサルタントより資料説明）

＜委員長＞

・会津美里町の観光に関連することであれば、今回の資料の内容に限らないので、各委員からご意見を伺いたい。

＜委員＞

・同社は旅行会社として、緊急雇用等で会津美里町に送客をしている。
・他地域との連携は重要である。会津美里町だけで全部完結するのは難しい。
・会津美里町の観光施設は、旅行会社と付き合うレベルに至っていないのが大きな問題である。よって人材育成は重要なプログラムと考えている。
・プラットフォームを立ち上げ、各季節の着地型商品ができてくると、大手エージェントもパッケージ商品を作っていくので、大きな動きになっていく。

＜委員＞

・武器を明確にすると情報発信がしやすい。ここ数年、イベント等で外部に出ていって、最も困ったことは「何をウリにするか」である。これまでは風評被害の関係で、福島県であることがウリになっていたが、徐々にインパクトが薄れていく。
・本計画の計画期間は 10 年で、例えば今考えることが、数年後にはどうか、ということから検討する必要がある。ニーズをしっかり把握する必要がある。
・地方においては、去年から今年にかけて消費額の減少が著しい。消費税増税の影響もあるかもしれないが、経済状況は今後 10 年くらいで変わる可能性もある。経済や法律改正など既に想定されている部分も加味しながら検討するべきである。
・振興公社、観光協会含め、町の観光の受け皿となっているプレイヤーが高齢化している。10 年後はさらに高齢化が進むので、次世代づくり、事業の継承についても組み入れる必要がある。おそらく現在の人口規模より縮小せざるをえないが、そこをどうカバーしていくか検討することも必要である。

＜委員長＞

・インバウンドが増えているといっても、特に努力したわけではなく、円安効果である。このようにブームに乗ったのではなく、会津美里町に魅力を感じた人に来てもらうという発想で進めないと、本当の観光はできてこないのではないか。

＜委員＞

・一宿泊事業者として感じたことをお話しさせて頂く。
・私は I ターンで会津美里町に来て 19 年になる。約 20 年間住んでみて、会津美里町は食べ物が美味しい、水が旨い、暮らしやすい、というのが率直な感想である。
・人口が減少する時代に、今後どうやって暮らしていこうか、と不安を感じている旅行者

が私の宿には多くやってくる。そのような方と日々話をしていると、会津美里は本当に恵まれているなと感じる。その恵まれているものをぜひ発信していきたいと常々考えている。これは言い換えると、有効な地域資源だが、これを活かした取り組みはまだない。これは会津美里町の武器になると感じている。

・震災前と後で、社会環境が大きく変わり、この４年間のインバウンドは散々たるものだった。ニュースで外国人観光客が増えていると日々目にするが、会津美里町には全く恩恵はないと感じている。震災前の状況としては、外国人旅行者が会津に関心をもつのは、やはり戊辰戦争前後の歴史について。地域的にはヨーロッパを中心とした先進国からの旅行者が多く、約８割を占めていた。

・６月に国土交通大臣が認定した訪日旅行者向けの「広域観光周遊ルート」によると、東北地方のルート名は「日本の奥の院・東北探訪ルート」となっている。会津は東北の最南端で、つまり成田空港等から入国した旅行者の入口にあたる。国交省によると、ターゲットは台湾、香港の個人旅行者で、売り込む内容は、自然、文化、歴史、食とのこと。この場合、これまで会津のポテンシャルに関心をもってくれたヨーロッパを中心とした旅行者に対する観光メニューと同じもので、果たして成果に結び付くのだろうかと疑問がわいた。おそらく違うメニューになるのだろう。アジアからの旅行者が会津の売りである歴史の部分で魅力を感じるのはどの時代かを考えると、戊辰戦争は近代の苦い歴史に結びつくものなので、この辺りが栄えた中世の歴史を何かメニュー化できたら一つの突破口になるのではないかと思う。

・インバウンドについては様々なやり方があるが、着地型観光を含め、この地域のもつ中世の歴史、人が暮らすために自然が与えてくれる恵み、これらを具体的なメニューとして各国に示して拡充すれば、成功を得るのではないか。

＜委員長＞

・委員が考える中世とはどの時代を指すのか。

＜委員＞

・外の方々に一番示せるのは、西暦 800 年～1000 年前後の時代のもので、人物については、これより後の時代になるが、天海大僧正だと思う。十分訴求効果のあるメニューになるのではないか。

＜委員長＞

・その時代はおもしろいと思う。数年前、秋田の国際教養大学等と研究した際に同様のことがあり、おもしろい歴史があっても全く知られていないことが分かった。どうやってアピールするかが課題である。

・会津美里町の宿泊のキャパシティはどのくらいになるか。

＜委員＞

・全ての宿泊施設を合わせても 150 ベッドくらいである。もっとも大きいのはほっとぴあ新鶴。地域別でみると、新鶴地域では宿泊施設４軒ベッド数 100、高田地域はユースホステル１軒のみで、ベッド数 24、本郷地域は２軒 30 程度となっている。

＜委員長＞

・宿泊が観光のマストかどうか、まず議論して頂きたい。観光客が来ることと、泊まることとは別の話である。特に、周辺地域との連携となると、ここに泊まる必然性をよほど強く作る必要がある。しかし、そのために宿泊施設を作るわけにはいかないだろう。古民家活用等の様々なアイディアもあるが、様々な視点で検討する必要がある。資料では宿泊施設が少ないことが課題となっているが、宿泊を考えないという方法もある。

＜委員＞

・会津若松市内で飲食店をやっている。「八重の桜」の効果は会津若松市内でも限定的で、お城周辺は除けばそれほどでもない。よって、会津美里町の観光入込が少ないのは周辺自治体との連携不足ということはない。

・資料では会津美里町の観光入込が 209 万人、伊佐須美神社が 140 万人となっているが、これは何のデータか。八重の桜効果で入込が増えた鶴ヶ城の入込を伊佐須美神社が大きく超えているのはおかしい。会津美里町に 209 万人も来ているのであれば、もっと賑わっていると思う。これが現実になるのは伊佐須美神社の新社殿が出来てからではないか。

・宿泊については、会津美里町に宿泊しなければならない条件づくりはできると思う。新鶴地域はメルシャンで販売しているワインの原材料となるぶどうの産地だが、「お酒」を活かすと「宿泊」につながっていくだろう。これを強く売り出していけば、新鶴を宿泊地として選んで頂くこともありえるのではないか。ただ、現状ではぶどうは産地としては有名だが、ワインがここで作られているわけではないため観光客が来ないので、どうにかしていきたい。

＜委員長＞

・食べ物は重要な観光資源である。会津美里町は食材が豊富で美味しい。ただ、ワインについては、ぶどうは作っているがワインを作っているわけではないので、ぶどうをいかにワインに結びつけるかはひとつのテーマである。また、お酒という意味では、ワイン以外にも美味しいお酒がいくつもあるので、ワインだけにこだわる必要はないだろう。

＜委員＞

・観光入込数の数値はおかしいと感じた。これは福島 DC（デスティネーション・キャンペーン）により、会津美里町にどのくらいの人が来ているのか、にも関連してくる。会津の他地域の商工会と話す機会が多いが、DC を見て来たという観光客には全く会わないと聞いている。特に観光バスで来る団体が増えたということもない。このようなキャンペーンを活かして、どのようなアクションをすれば、少しでも観光客が増えるのか検討していく必要がある。

・例えば、只見川流域（只見川ライン）では、柳津、三島、金山などが広域連携で観光客の誘致に取り組んでいる。これに対して、会津美里町はどことも連携せず、単独で頑張ろうとしているが、これには無理があると思う。例えば、会津坂下町や会津若松市等と連携して取り組む動きになれば良いと思う。

＜委員長＞

・ピンポイントでは会津美里町にも人は来ていると思う。高田地域のそば店に来ていた団体に、この後どこに行くのか聞いてみたところ、「そばを食べに来たのだから、この後すぐ帰る」と言われた。このような人気店もあり、点では人は来ているが、線になっていない。魅力あるところはたくさんあると思う。

＜委員＞

・八重の桜効果の観光客のほとんどは観光バスで来るツアー客で、個人客が少ないだけに、主要観光地しか周遊しないという状況が会津管内全体で見られたのではないか。また、福島 DC についても、JR が通っていない地域では全く効果が見られないなど効果は局地的である。

・一昨年から商工会青年部と会津みどり青年連盟連絡協議会が合同で街コン事業を実施しており今年で 3 回目になる。若手の間では、これからは商工会や農青連などの垣根を越えなければ街を守っていけないと話している。広域的な団体同士の結びつきがあり、その延長上に 6 次産業化等を見据えていかなければ、稼業を継ぎたいと思う子どもが育たないのではないか。

・街コンは一泊二日で実施している。広い会津美里町の中で女性に見せたいスポットはたくさんあるが、特に本郷焼の手びねり、ろくろ体験は好評である。しいて問題と言えば、宿泊施設が限られてしまう点である（街コンではほっとぴあを利用）。ほっとぴあに泊まった場合、新鶴地域には飲み屋など出かける場所が少ないので、どうしても高田地域に出かけることになる。しかし、飲むと帰りの交通手段はタクシーしかない。例えば、東山温泉と飲み屋街の距離感のようなものは、会津美里町では感じられない。

・天海大僧正については、観光協会においても天海大僧正顕彰事業委員会などで調査研究を行っている。若い世代からは、ゲームキャラクターの天海の方が知られており、天海

の坐像や肖像画等を紹介してもピンとこない。ゲームに出ているあの天海だね、あくどい顔しているね、というのが若い世代の一般的な評価である。天海は見えない部分が多い人物なので、そういう意味での方向付けを明確にしながら、皆さまにご提案できればと考えている。

・30-40 代の若手の間では、上の世代の方々が残した荷物をわたしたちが処理する番で、次の世代に重荷を背負わせないように、会津美里町を自分たちで守っていこうと話している。何とか良いまちづくりをしていきたい。

＜委員長＞

・箱根は外国人観光客に評判が悪いという。なぜならば、泊まっても行くところがないから。ヨーロッパの人は普段夜 8 時から 12 時くらいまで食事をしているが、日本の旅館では食事が 6～8 時で終わる。しかし、8 時に追い出されても行くところがない、バスも動いていないとう状況である。「泊まる」ということは、施設の問題に加えて、泊まって「楽しめる」という状況を作っていくことである。これは日本全国どこでも抱えている問題である。私が以前に経営していた箱根のホテルでは、外国人がくると、大きな宴会場を無料開放していた。勝手に飲んだり食べたりする状況を作らないと不満が残る。

・天海大僧正は、昨年のアンケートで知名度が全体で 20%、都内で 15%と低かった。私は天海が建立した上野・寛永寺の檀家なので、子どもの頃から良く知っているが、学生に聞くと天海知っている人はほとんどいない。天海大僧正を意図して観光資源とするならば、ストーリーを作っていく必要がある。例えば、ゲームキャラクターの天海は悪役だが、そうではないストーリーを作り発信していかないと、観光資源とする場合、次世代のことを考えると難しいのではないか。この秋に発行される寛永寺の檀家向けの冊子に、天海と会津美里町のことが掲載されるが、このように観光資源として活かす工夫が必要である。資料にある観光資源はその通りなのだが、普通の見方をしていても、観光資源として掘り出せないだろう。

＜委員＞

・昨年に引き続き委員を担当させて頂く。私自身の出身は茨城県で、観光の仕事に就くために、長野県の飯山市観光協会に 7 年間勤め、民間事業者と共に行政の支援を受けながら活動した。その後ご縁あって、実家に近い福島に来た。会津の高校を出て地元で就職をしたい若者に、2 年間観光の職業訓練をする学校で指導員をしている。震災直後に移ってきて今年で 5 年目である。

・会津美里のロケーションをとても気に入っている。国立公園に指定されている猪苗代や磐梯山の景観もダイナミックでいいが、「会津の良さ」と言った場合に、先ほどの意見にも出た「自然の豊かさ」、「食事の美味しさ」といったことを体感できるようなロケー

ションとして、目立った形ではないが、会津美里町ならではの良さがあるのではないかと思っている。

・資料は現時点では総花的である。本計画で何を目指すのか。本計画は、町の方々がこれを基に観光に取り組むことで、町に来た観光客に満足して頂くためのマニュアル・方針になるものである。本計画を会津美里町ならではの内容にするために今後議論していく必要がある。

・資料の中で様々な施策例が挙げられているが、本計画が出来上がる段階で、このような方向で進めると示すべき施策と、あるいは来年度からの実施の 5 年間で作り上げていく施策と 2 通りあり、整理する必要がある。計画の中で方針を進めることで、町が予算付けをしたり、民間事業者が投資したりする場合がある一方、事業のための環境を整えることを計画でうたい、来年度から 5 年間で実施するものがある。総花的になっている部分をどう整理していくかが重要である。

・資料中、専門用語が多いので、一般町民でも理解できるように整理する必要がある。

・第三次総合計画が並行して策定作業が進められているが、その策定状況について、事務局から我々委員に情報提供をして頂きたい。しっかり整合を取って、町民の方に自信を持って示せる計画にしたい。

・資料では施策の項目数が非常に多いので、実現可能性を踏まえて検討する必要がある。行政の観光予算の枠組みや、民間事業者の取り組みと整合しているかどうか、また、担い手は誰かイメージをできる形で方向性を出さないと絵空事になる可能性があるので、その点気を付けながら議論していきたい。

＜委員長＞

・本日の資料はたたき台なので、このままということはない。予算、人材、民間の力など様々な面での実現可能性を考慮して検討して頂きたい。

・コンサルタントにお願いしたいのは、例えば、「観光プラットフォーム」とは何なのか、一般名詞ではなく、きちんと定義付けをして頂かないとゴールが見えないので、この点明らかにして頂きたい。

＜事務局（コンサル）＞

・プロポーザルの段階では、拠り所が少ないため、机上のデータで資料を作成した。本日委員の皆様のお話しを伺い、知らないことがたくさんあることが分かり、また皆様の熱意もひしひしと伝わり、改めて気を引き締めているところである。

・分からないことがまだあるので、今後役場を通じて、意見交換させて頂ければと思う。

＜事務局（町）＞

・観光入込客数については、管理者や経営者からの聞き取りによるものであり、町として

改めて把握した数字ではない。記名帳、駐車台数、カウンター等、様々な方法により積み上げていただいたものの集計であると思われるが、実数としての精査はしていない。

・会津美里町の観光予算は、観光協会やイベント実施への補助でほとんどを占める。本計画の策定については、県の補助金を活用している。このように、課で何か事業を興す際には、まず補助金を探す必要がある。単独財源でどの程度のことをやっていくのか、財政規模と比較して非常に難しい状況である。

・第三次総合計画は9月頃にできる予定で、観光振興計画より先に（年内に）議会にお知らせする予定である。よって、本策定委員会では総合計画のデータを把握した上で議論して頂く。また、総合計画では詳細まで書き込まないので、その全体像に基づき、個別計画としての観光振興計画がぶら下がってくる形になる。観光振興計画は来年 3 月の議会に示す予定である。

・一方で、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は10月までに策定する予定で、まちづくり政策課が主体となり進めている。観光事業についても、来年度できるものがあれば、総合戦略に載せていきたい。総合戦略は 5 年間の事業である。直近 5 年間で作り上げていくものが対象になるかもしれないし、5 年間で実施する事業も対象になるかもしれない。そのメニュー出しを急ぐ必要がある。

＜委員長＞

・課の予算が少ないことは特に驚くことではない。お金がないから、このような場で知恵を出し合うのである。実現可能性にはお金、人材等関わってくるが、様々な見地からより具体的なものを作り上げていきたいと考えている。

・もう少し時間があるので、皆さんが今感じている問題点等があれば、発言して頂きたい。

・現在の会津美里町において、観光が実際どの程度の位置づけになっていると思うか。会津美里町では観光を活性化の材料とする感覚はあるのだろうか。

＜委員＞

・私は会津高田駅前で商売をしているが、店のお客さんで、種蒔き桜を見て、ここまで歩いてきたという人がいた。種蒔き桜は駅前から４～５km 程離れたところにあるが、その地区まで路線バスは通っていなし、デマンドタクシーも町民しか使えない状況。そのお客さんに、これから千歳桜を見に行きたいけど、徒歩でどうやって行ったらいいかと聞かれたので、歩くのはやめた方がいいと答えた。例えば、そのような場合にデマンドタクシーが使えれば良いのではないか。そうすれば、もっと気軽に行きたい所に行くことができる。デマンドタクシーはまちの税金が入っているため、難しい面があるかもしれないが、もう少し観光客にやさしいまちになれたら良いと思う。

＜委員長＞

・ここの住民は皆車を利用しているので、車で来る人の心配をする必要はない。車で来ない方を想定する必要はそもそもあると思うか。

＜委員＞

・ユースホステルの場合は、実際、車で来る方より電車で来る方の方が多い。高田駅から徒歩 20 分程の所にあるので、駅から近いとは言えない。なぜ歩いてまで来るのかは分からない。駅利用者には送迎サービスを実施している。車の方だけ相手にして成果が出るものでは決してないと思う。

＜委員長＞

・そのような方はどうやって移動しているのか。

＜委員＞

・俗に言うバックパッカーが多いので、電車と徒歩、自転車など、自分の足で移動するのが彼らの基本になっている。

＜委員長＞

・若いバックパッカーであれば、多少不便な環境でも文句は言わない。わざわざグループのインバウンドを呼ばなくてもいいのかもしれない。つまり、目的地にあった観光客という考え方もある。無理にがんばらずに、今ある資源を活かしながらできることをやる方法もある。例えば、バックパッカーに特化したプログラムを作ることも考えられ、そうすれば、バックパッカーに向けて町の魅力をどう伝えるか、といった課題にしぼっていくことができる。

＜事務局（町）＞

・確かに、駅からユースホステルに歩いて向かう若い人をよく見かける。ライダー等の若い人は安い宿を良く利用する。

＜委員＞

・バックパッカーは若いイメージがあるかもしれないが、世界中で高齢化が進んでいるように、バックパッカーの高齢化も進んでいる。定年後の方がバックパックを背負い歩いてくることもある。逆に若い人もいる。

＜事務局（町）＞

・ライダーもヘルメットを取ると案外高齢者だったりする。

＜委員長＞

・新鶴の「Café&marché Hattando」に、観光客は来ているか。

＜委員＞

・観光客と言っていいかどうか分からないが、町外からの利用客は全体の約半数程になる。

＜委員長＞

・彼らは、町の観光と合わせて来ているのではなく、「Café&marché Hattando」で食事をするのを目的に来ていると考えてよいのか。

＜委員＞

・そうだと思う。カフェは少しわかりにくい場所にあるので、観光ついでに来たわけではないと思う。

＜委員長＞

・食べることは観光の大きな魅力になる。会津美里町は食材が豊富だが、現状では食事をする場所が少ない。例えば今日は「野菜ビュッフェ・ナポリピッツァいわたて」が定休日だったので、別の食堂に行った。宿泊客以外にも、日帰りで訪れた観光客はどこで食事をとるのか。伊佐須美神社に多くの観光客が来ているが、食事はどうするのか。神社周辺も食事できる場所はあまり多くない。鶏か卵かで難しいかもしれないが、このようなことも含めて検討していく必要があるのではないか。人を呼び込んでおいて食事する場所がないというわけにはいかないだろう。これを考えると、誰をターゲットにするかが重要になってくる。

＜委員＞

・私は 19 年前に伊佐須美神社で結婚式を挙げたが、今は伊佐須美神社で式を挙げる人を全く聞かなくなった。これから社殿が新築されたら、多くの方が見に来ると思うが、それがずっと続くとは思わない。伊佐須美神社に来る人は神頼みを求めて来ると思う。神頼みを具現化したものとして、結婚式はものすごく良いサービスなのではないかと考えている。今日見たニュースで、今の若者は結婚式に何を求めているのかという調査結果が紹介されていた。結婚式を挙げる理由は親に対する感謝がほぼ 100%を占めていた。そこで親に対する感謝を演出するために巷では様々なプランが作られているのだが、その中でおもしろかったのは、沖縄の事例で、生まれてから結婚するまでのストーリーを子役が披露宴で演じて感動を演出するというもの。例えば、会津美里町には震災後注目を集めている大沼高校演劇部があるが、彼らの発表の場を兼ねて、伊佐須美神社

の結婚式と演劇を結び付けるということも考えられる。これは将来的には人口減や少子化の対策にもつながっていくかもしれない。このような良い素材が地域にあることを我々が気付いていない場合もある。

＜委員長＞

・今若者の間で神社・仏閣の御朱印が流行っている。パワースポットのブーム等、若い人は信仰を離れて神社・仏閣に関心を持っている。そのような切り口が若い人を引き付ける。神社・仏閣＝信仰という前提を持たない人が関心もつためのアプローチも考えられる。誰に対して、何を、どうアピールするのかが今後の課題のひとつである。

・伊佐須美神社の新社殿が完成したら、大勢の参拝客が訪れるだろう。これは我々が関知しないところだが、神社を応援するようなアイディアがあれば挙げていきたい。新社殿は建築面も含め世界に発信するべき存在だと思う。そうした面から関心を持ってもらう方法もある。

＜委員＞

・マンホールの蓋を巡り歩いている女性が結構いて、蓋女と呼ばれているように、何でも人を呼べるような素材になりうる。

＜委員長＞

・私が観光情報流通機構を立ち上げたのは、観光情報の発信が日本中で出来ていないからである。結局、皆色んなものを持っているが、情報が外に出ていかない。世界へ発信するという点で、観光情報については少なくとも日本からは英語で情報発信されていない。ターゲットがバックパッカーやインバウンドであれば、海外に向けて発信することも含めて考えていく必要がある。これはソフト面の課題なので、実現しやすいのではないか。

７．そ の 他

＜事務局（町）＞

・次回の委員会は 8 月 20 日または 21 日で調整させて頂きたい。

＜委員長＞

・本日は策定委員会の第 1 回ということで、皆様から忌憚のないご意見を頂いた。次回は、コンサルタントの方で内容を詰めて頂き、より具体的に、たたき台ではなくワンステップ上がったところで、我々が議論できるようなものをご提示頂ければと思う。

＜委員＞

・観光ビジネスとして計画する上での参考として、会津地方の観光は、4～11 月と 12～3 月で大きく異なる。現状では 12～3 月は 4～11 月の 1/6 まで減少する。これを踏まえたビジネスを検討する必要がある。

・会津美里町のビジネスにおける観光の割合は５％くらいかと思う。町内の飲食店は観光も視野に入れているが、観光相手だけでは飲食店は成り立たない状況である。日帰り温泉施設においても（宿泊は除く）、観光利用（町外）は５％未満である。ただ、ビジネスにならない部分における観光の関わりはもっと多いだろう。

・中通り、浜通りの方々は、会津は接待で利用するイメージを持っている。

＜委員長＞

・かつて郡山に行った時に、会津らしいところとして、会津の郷土料理店に連れて行ってもらい、味噌田楽を味わったことがある。確かに会津はそのようなイメージがある。

＜委員＞

・そのようなイメージがあるため、会津は常に上品であってほしいという意見を頂いた。

・以前の別の協議の場で、委員が会津美里は「日本のふるさと」と言っていた。そのようなイメージ感にぴったり合うのかもしれない。

＜委員長＞

・日本人は「会津」という地名に対して、鶴ヶ城や白虎隊など敬虔な気持ちになるようなイメージを持っている。会津が着く地名は多くあるが、これらによる会津連携もありうるだろう。会津全体でがんばり、その中での美里の立ち位置や役割は何なのかを考えていく必要がある。

・このように色んな面から考えてご意見頂ければと思う。

８．閉　　会（副委員長）

以上